

アブラハム ④

□アブラハムの信仰の手本

1. 約束の地を与えるという神の召しに応答して、行先を知らずに、生まれ故郷を離れた
2. 約束の地に入っても、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた
3. 子が生まれるという神の約束を、不可能でも信じた
4. **土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した**
5. 目の前の土地ではなく、より優る国、神の都を求めた

土地の約束・子孫の約束
祝福の約束

□本日の内容・・・4番目、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した

(2)～(9)は、創世記22章より

- (1) アブラハムとサラの間に、イサクが生まれたのは、アブラハムが100歳、サラは90歳のときであった。イサクは**アブラハム契約**の継承者、彼が30歳を越えた頃のこと。
- (2) 神がアブラハムを試練にあわせられた。神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」
- (3) 翌朝早く、アブラハムはろばに鞍をつけ、二人の若い者と一緒に息子イサクを連れていった。アブラハムは全焼のささげ物のための薪を割った。こうして彼は、神がお告げになった場所へ向かって行った。三日目に、アブラハムが目を上げると、遠くの方にその場所が見えた。
- (4) アブラハムは若い者たちに、「おまえたちは、ろばと一緒に、ここに残っていなさい。私と息子はあそこに行き、礼拝をして、おまえたちのところに戻って来る」と言った。アブラハムは全焼のささげ物のために薪を取り、それを息子イサクに背負わせ、火と刃物を手に取った。二人は一緒に進んで行った。
- (5) イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん」彼は「何だ。わが子よ」と答えた。イサクは尋ねた。「火と薪はありますが、全焼のささげ物にする羊は、どこにいるのですか。」アブラハムは答えた。「わが子よ、神ご自身が、全焼のささげ物の羊を備えてくださるのだ。」こうして二人は一緒に進んで行った。
- (6) 神がアブラハムにお告げになった場所に彼らが着いたとき、アブラハムは、そこに祭壇を築いて薪を並べた。そして息子イサクを縛り、彼を祭壇の上の薪の上に載せた。アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。
- (7) そのとき、**主の使い**が天から彼に呼びかけられた。「アブラハム、アブラハム。」彼は答えた。「はい、ここにおります。」御使いは言われた。「その子に手を下してはならない。その子に何もしてはならない。今わたしは、あなたが神を恐れていることがよく分かった。あなたは自分の子、自分のひとり子さえ惜しむことがなかった。」

- (8) アブラハムが目を上げて見ると、見よ、一匹の雄羊が角を藪に引っかけていた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の息子の代わりに、全焼のささげ物として献げた。アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエ（主が備えてくださる）と呼んだ。
- (9) **主の使い**は再び天からアブラハムを呼んで、こう言われた。「わたしは自分にかけて誓う—主のことば—。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかったのも、確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」
- (10) ヘブル 11：17～19 信仰によって、アブラハムは試みを受けたときにイサクを献げました。約束を受けていた彼が、自分のただひとりの子を献げようとしたのです。神はアブラハムに「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」と言われましたが、彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできると考えました。それで彼は、比喩的に言えば、イサクを死者の中から取り戻したのです。

祝福の約束

□本日の勧め

土地の約束・・・アブラハムは、75歳で約束の地に入りましたが、他国人のようにして寄留し続けました。それができたのは、神の約束は必ず成就するのだから、このまま自分が死んでも、神は自分を復活させて、この約束の地を所有させてくださるはずだ、と信じたからです。

子孫の約束・・・また、死んだも同然の年老いた自分と妻から、イサクという約束の子が生まれたことも、死者を生かす神の力を信じることにつながりました。

アブラハムが受けた試練・・・この復活の信仰を働かせたのが、イサクを献げよという試練を受けたときです。アブラハムはためらうことなく、モリヤの地に向かいました。アブラハムは、「神が『イサクにあって、あなたの子孫が起こされる』創 21：12」と言われたのだから、神はイサクをよみがえらせるはずだ」と確信していたのです。

神の試練の目的・・・神がアブラハムに試練を与えたのは、アブラハムの心の中にあった復活信仰を明らかにするためでした。

十字架の予告・・・父親がそのひとり子を献げる、まさにこれは、父なる神がひとり子イエスを十字架につけて私たちの罪の身代わりとすること（罪の贖い）の予告です。モリヤの山は、のちのエルサレムです。イエスはここで十字架につくことになります。そして、イエスは三日目に復活しました。

祝福の約束・・・神がアブラハムと契約した3つの約束、その三番目は、祝福の約束です。それは「地のすべての国々」の人々が受け取ることができます。それを受け取る道は、罪が贖われたことと復活を信じる信仰です。祝福の中心は、永遠のいのちです。